（様式２）

令和7年度 学校経営報告（学校評価報告書）

四條畷市立忍ケ丘小学校
校　長　　上 井　大 介

１　学校経営方針

〇令和４年１月に策定の**「四條畷市教育振興基本計画」の基本理念は「みんなの学びが叶うまち　～生涯学び　夢　挑戦　～」**とされており、「予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子どもからおとなまで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要」と示されている。この基本理念の実現に向けて、学校においては、今を生きる子どもたちの未来を見据え、**「学び方を学ばせる」、「学ぶ力や学ぶ意欲、学ぶ楽しさを体感させ、身に付けさせる」**ことがミッションであると考えている。

〇このことを背景に、本校学校教育目標は四條畷中学校区の合言葉を参酌し、教職員間の議論を経て、

★畷中校区の合言葉　　３つの「るるる」

・ねばーる（自分と向き合う力）・やってみーる（自分を高める力）・つながーる（他者とつながる力）

★令和７年度【学校教育目標】

「みんなで　つくる　楽しい忍小　　◇挑戦しよう！　◇つながろう！　◇学び続けよう！」

とした。授業等のすべての学校教育活動のなか、あらゆる場面において、子どもたちが「主体的に考え行動する『生きる力』を育む教育の推進」を図る。子どもたちには、まず「夢」を持ち、その実現に向け、自分を高めるために挑戦し、仲間や周囲とつながり、主体的に学び続ける子どもの育成に努める。

〇この目標を達成するための具体的な方策として、以下を挙げる。

①**「あいさつ」**がしっかりできることを掲げたい。仲間や先生、地域方々と、学校でも地域でも家庭でも「あいさつ」を通して、**つながり**を大切にしてほしい。そして、子どもどうしはもとより、教職員間、教職員と保護者、学校と地域など様々な関係において**「つながり」**を意識した取組みを推進していく。

②**「ありがとう」**という感謝の気持ちと周囲を気遣える**「やさしい」**気持ちを持ってほしい。良好なつながりを築くため、「ありがとう」や気遣い心遣いを通して、つながりを深め、安心感を持たせたい。

③安心感の上に**「チャレンジ」**する気持ちを持たせたい。「失敗や間違いは恥ずかしいことではなく、成長の大きな一歩であること」を浸透させ、何事にも挑戦する意欲を持たせ自己肯定感醸成につなげたい。

④「心理的安全性」を意識した取組みを行う。学校が子どもにとっても教職員にとっても安心して学習できる場所、仕事ができる場所であるよう心掛けたい。

以上、自身も他者もともに成長できる学校を創造するとともに、そのような子どもたちの育成に関わる教職員、保護者、地域方々にも、これら方針のもと、取り組める仕掛けづくりを進めていく。

２　めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	〇子どもたちも　おとなも　よりよい自分　よりよいつながり　を育む学校
★めざす子ども像	〇よりよい自分・学び・つながりをめざし、チャレンジする子 〇自分や友だちを大切にし、つながる子 〇主体的に、楽しく学び続ける子
★めざす教師像	〇「楽しい学校」の創り手として、役割を自覚し、主体的に実施する教師 〇ことばを大切にし、子どもたちの育ちを支える教師 〇強みを生かし、弱みを支え合う　成長し続ける教職員集団

（様式２）

３　学校の現状（よさと課題）

（１）子どもたちの実態

本校の子どもたちは、学習面ではまじめに取り組み、課題には真摯に向き合い、答えを見いだそうとする姿が見られる。また、挑戦してみようとする安心感と場があれば力を発揮することができる。子どもたちが挑戦してみようという気持ちにある安心感や持てる力を発揮できるような環境や場を設定し、成功体験を重ね、できる自分に自信を持ち、自己肯定感をさらに高めることをめざしたい。

また、人に対して思いやりを持った行動ができる子どもの姿が多く見られる。今後はより一層、子どもたちも自ら相手を理解し、折り合いをつけ、共に進んでいくための力を身に付けていってほしいと願っている。そのために、子どもが周囲の仲間への関心や意識を持ち、考えがぶつかった際も話し合いをとおして、双方の意見を交流させ、折り合いをつける経験を積ませたい。その結果として、不登校児童数やいじめ事案の減少につなげたい。

（２）子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

本校は四條畷市の東側、自然豊かな環境に立つ。1973 年(昭和 48 年)、児童数増加に伴い、四條畷市立四條畷小学校から分かれ開校し 53 年めを迎える。校区内は、閑静な住宅地と JR 忍ケ丘駅を中心とした商業中心の地域があり、住みよい環境にある。地域の教育に対する関心は比較的高く、学校教育活動に協力的な地域である。

また、子どもたちの多くが進学する四條畷中学校とは敷地が隣接し、小中連携棟を介してつながっている。両校の教職員が行き来することが増え、不必要な段差のない進学を意識した連携が実現しつつある。この環境は強みであり、今後もこの好環境を大いに活用した取組みにつなげたい。

②地域

本校校区の地域においては、これまで続く良き伝統を守りながら新しいつながりを築こうとする取組みが、地域の自治会をはじめ関係諸団体によって企画運営され、街づくりを行っている。学校や教育全般に協力的であり、子どもに対する働きかけも積極的である。

③組織（教職員、ＰＴＡ、保護者）

本校教職員は様々な取組みを通して、組織的に動くことや協働して取り組むことを経験することができた。昨年度までの数年間は、授業づくりについて府の指定校の取組みを一丸となって取り組み、成果を上げている。また、教職員は子どもや保護者に対して、適切な距離感で寄り添い、熱心に指導できる素地を持つ。子どもへの指導は一方的な指導ではなく、子どもの話をしっかりと聞き、安心感を持たせながら、解決に向かう意識が高い。今年度は人事異動より構成も大きく変わったことからこれまでの本校のよき流れを共有しつつ、新しい取組みや雰囲気づくりを進めていきたい。

ＰＴＡは学校運営や学校行事等に関し、理解を示していただいている。常に役員会等において、情報共有しながら、進めることができる素地がある。

保護者や家庭も子育てについて、熱心に関わっていただいている。今後もＰＴＡや育成会などの保護者の地域コミュニティへの参画意識がより一層高まり、地域でも学校でも子どもを中心に据え、大人がスクラムを組めるようなつながりの構築に努めてまいりたい。

（様式２）

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの実現等を主眼に置いた学習指導要領の確実な実施に向け、「確かな学び」の定着を図るとともに「生きる力」を育む指導を行う。 ①「豊かな心の醸成」 子どもが夢を持ち、子どもの安心・安全の確保を最優先に置いた学校運営に努める。あいさつなど他者との関わりを通して「つながり」を意識し、「自己肯定感や自己有用感の醸成」を図る。 ②「確かな学力の育成」 校内研究は国語科を軸とした「言語能力」の育成に努める。また、タブレットＰＣを活用した授業を推進し、授業改善をめざす。 ③「健やかな体の育成」 「体力づくりアクションプラン」に基づき、児童の体力向上に資する取組みを充実させるとともに、健康に関する指導や食育の推進を図り、命や健康を大切にする意識を育む。	① 学校教育自己診断、児童保護者教職員アンケート（３学期分） Ａ（児）「自分から進んであいさつしている」（R6/74%） Ｂ（児）「自分にはよいところがあると思う」（R6/78%） Ｃ（児）「人の役に立つ人間になりたいと思う」（R6/95%） Ｄ（児）「将来の夢や目標を持っている」（R6/86%） Ｅ（児）「先生は、いじめなど自分が困っているときに真剣に対応してくれる」（R6/91%） Ｆ（児）「自分が苦手なことやできないことにもチャレンジするようにがんばっている」（R6/84%） Ｇ（児）「新しいことを学ぶことや知ることは楽しい」（R6/86%） Ｈ（児）「学校は楽しく安心できる」（R6/89%） ② 学校教育自己診断等　児童保護者教職員アンケート（３学期分） Ａ（児）「授業はわかりやすくて楽しい」（R6/84%） Ｂ（児）「国語の学習は好きですか」（R6/67%） Ｃ（児）「書くときや話すときに、説明力を意識するようになってきましたか」（R6/77%） Ｄ（児）「自分で計画を立てて勉強をしていますか」（R6/63%） Ｅ　すくすくウォッチ「わくわく問題」の正答率（R6/+4P） Ｆ　全国学力・学習状況調査の正答率（R6/＋1.02P） Ｇ　標準学力検査（ＣＲＴ）の正答率（R6 NRT/-0.01P） Ｈ（保）（児）（教）「タブレットＰＣ等ＩＣＴ機器を活用した授業」に関する質問（R6/児 87%、保 72%、教 88%） ③ 学校教育自己診断等　児童保護者教職員アンケート（３学期分） Ａ（児）「運動することは好きですか」（R6/84%） Ｂ　全国体力・運動能力、運動習慣等調査（R6/男子-4.9P、女子-4.8P） Ｃ（児）「給食の時間は楽しみだ」（R6/92%）

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	結果	評価
①「豊かな心の醸成」	Ａ　80%以上 Ｂ　80%以上 Ｃ　80%以上 Ｄ　80%以上 Ｅ　80%以上 Ｆ　80%以上	Ａ 80% ○ Ｂ 83% ○ Ｃ 95% ○ Ｄ 88% ○ Ｅ 84% ○ Ｆ 82% ○	達成に至った。 あいさつは、昨年度着任したときから、子どもたちには声をかけてきた。地域等からは「忍小の子どもたちはよくあいさつをする」とのお声をいただく。昨年度と比較しても児童のあいさつへの意識は広がりつつある。

（様式２）

	G　80%以上 H　80%以上 ※肯定回答	G 88% ○ H 87% ○	その他、将来の夢や目標、苦手なことへのチャレンジなどは達成基準を上回った。昨年度比較で数値が上下している項目もあるが、全体的に子どもたちは安心感をもって学校生活を送っていると感じており、教職員の丁寧な寄り添いの賜物と考える。
②「確かな学力の育成」	A　80%以上 B　70%以上 C　80%以上 D　70%以上 E　府平均以上 F　全国平均 G　全国平均 H　児 80%以上 保 75%以上 教 90%以上 ※肯定回答	A 83% ○ B 77% ○ C 79% △ D 67% △ E +3.5ポイント○ F -0.01ポイント△ G -5.82 ポイント△ H 児90% ○ H 保77% ○ H 教82% △	国語や授業に対する意識は達成基準を上回った。また、学力面でもすくすくウォッチ「わくわく問題」は府平均を大きく上回り、全国学調もわずかながら全国平均に及ばなかった。 また、今年度本校では「言語活動の充実」をテーマに掲げて取組を進めてきた。11月には府内教職員を対象とした公開授業も開催し、市内教員を中心に100人ほどの参加者があった。加えて、2月には大阪府教育庁より「令和7年度優秀教職員等表彰団体の部」を受賞するなど、この間の取組に対して、一定の評価をいただいたと考えている。
③「健やかな体の育成」	A　80%以上 B　全国平均 －２ポイント C　85%以上 ※肯定回答	A 81% ○ B 男－6.0 △ B 女－1.9 ○ C 88% ○	取組や児童の意識の基準は達成したが、実績数値は達成に至らなかった。 運動や食育に関する意識は昨年度同様に高まっている。栄養教諭や給食センターと連携した取組等の成果であると考える。 一方で、今年度も全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は全国平均に及ばなかったが、女子は達成基準を越えた。今後も体力向上を図る取組の充実を図りたい。

目標設定区分2『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
教職員一人ひとりが明確なミッションのもと、やりがいと創造力をもって担当に当たれるよう適材適所を意識した学校組織体制を構築とともに、質の高い学校運営をめざす。 ①　「良好な学校組織の在り方」 管理職、教務主任、各部長、ブロック代表者等によるブロック長会議を効率的に開催するとともに、都度学校長のビジョンを明確に示しつつ、円滑な学校運営の推進を図る。 ②　「同僚性」	①　学校教育自己診断等　教職員アンケート（３学期分） A　「学校長の示すビジョンが明確ですか」(R6/最 72%) B　「学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか」(R6/最 63%) ②　学校教育自己診断等　教職員アンケート（３学期分） A　「学校は楽しく安心できる場所である」(R6/96%) B　「認め合い、支え合い、助け合う温かい職場環境の雰囲気がありますか」(R6/94%) ③　学校教育自己診断等　教職員アンケート（３学期分） A（教）「特別支援教育の視点から、指導上の工夫（板書の

（様式２）

教職員間で「認め合い、支え合い、助け合い」の意識のもと、組織を超えたサポート体制がとれるよう意識醸成を図り、温かく風通しの良い職場環境をめざす。 ③ 「教職員の資質能力の向上」 支援教育の視点を取り入れた授業づくり、コミュニケーションの構築等、取組みの推進を図る。相手が大人でも子どもでもまずは安心できる言葉かけやフォローに努めながら、必要な指導を行う意識を確立させたい。	説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか」（R6/94%） Ｂ（児）「先生はあなたの良いところを認めてくれると思いますか」（R6/87%）

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	結果	評価
①「良好な学校組織の在り方」	Ａ 70%以上 Ｂ 50%以上 ※最肯定回答	Ａ 67% △ Ｂ 45% △	達成には至らなかった。 今年度は人事異動により教職員集団が大きく変わったこともあり、組織的な動きについては、低下したと感じている。校長のビジョンをより明確に示し、一人ひとりの力量に頼るのではなく、より組織として対応できる体制構築が必要と考える。
②「同僚性」	Ａ 85%以上 ※肯定回答 Ｂ 85%以上 ※肯定回答	Ａ 91% ○ Ｂ 97% ○	達成に至った。 先に述べたように、年度当初の教職員の入れ替わりにより、職場の雰囲気については、心配していたところだが、経験年数の長短を問わず、職員室内で互いに声を掛け合うなどの意識は継続できたと考える。 児童と同様に教職員も「職場（学校）は楽しく安心できる場所」であることを今後も意識しながら学校運営を進めていきたい。
③「教職員の資質能力の向上」	Ａ 90%以上 ※肯定回答 Ｂ 85%以上 ※肯定回答	Ａ 94% ○ Ｂ 87% ○	達成に至った。 今年度は支援教育の視点を取り入れた授業づくり（授業のユニバーサルデザイン）や児童対応をについて、校内研修だけでなく市全体として取組（ポジティブ行動支援）の成果が出たと考える。子どもの困り感がある場合、授業でいかに安心させられるか、その対応について、今後も研修を重ねたい。

目標設定区分3『人の管理・育成』

（様式２）

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
教職員の資質向上とキャリアステージに応じた人材育成に重点を置く。 ① 「教職員の資質能力の向上」 教職員の人権意識の醸成や資質向上を図り、児童や保護者、地域から信頼される組織化された教職員集団をめざす。 ② 「キャリアステージに応じた人材育成」 次期管理職候補、学校教育活動全体の向上を図るミドルリーダーの育成に注力する。 ③ 「持続可能な指導体制の整備」 教職員の働き方改革も踏まえ、各取組みや会議等がより効果的かつ効率的に進むよう、組織化された会議の運営を模索する。	① 学校教育自己診断等　児童保護者教職員アンケート（３学期分） A（保）「子どもにとって学校は安心できる楽しい場所である」（R6/91%） B（保）「担任等はお子さまの気持ちをよく理解している」（R6/87%） C（児）「学校は楽しく安心できる場所である」（R6/89%） ② 次期管理職候補、首席及び指導教諭等ミドルリーダーに位置する受験者の推薦 ③ 学校教育自己診断等　教職員アンケート（３学期分） A（教）教職員の時間外勤務実態（R6/平均 33H/月※3 月） B（教）「授業準備や子どもと向き合える十分な時間が確保できるよう組織として対応できる環境が整っている」（R6/84%）

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	結果	評価
①「教職員の資質能力の向上」	A　85%以上 B　85%以上 C　85%以上 ※肯定回答	A 88% ○ B 87% ○ C 87% ○	達成に至った。 学校現場においては、様々な課題や事案が生起するが、そのなかで児童も保護者も「学校が安心できる楽しい場所である」について、達成基準を越える結果となったことは評価できるが、より一層の取組が必要と考えている。年度途中からも子どもが安心できる環境づくり等について議論し取組を進めており、引き続き「心理的安全性」の大切さを、教職員や保護者に発信したいと思う。
②「キャリアステージに応じた人材育成」	管理職選考及び三部会部長等ミドルリーダーの育成	管理職選考推薦 三部会部長にミドルリーダーを起用	達成に至った。 教職員の平均年齢が下がり、ミドルリーダーの育成が急務であるなか、各部会の長を経験年数の少ない教員が担うことで OJT ができている。この経験を通して、各々の資質向上及び指導力のある教員の育成を図るとともに、異動年限が短くなるなか、円滑な引継ぎや継承にもつながることを期待している。
③「持続可能な指導体制の整備」	A　30H/月以内 B　70%以上 ※肯定回答	A 33H/月△ B 69% △	達成に至らなかった。 「授業準備や子どもと向き合える十分な時間が確保できるよう組織として対応できる環境が整っている」は大幅に低下した。一方で、加配教員や市教育委員会指定の ICT モデ

			ル校として取り組んだ校務用 PC のポータルサイトは教職員の作業時間の軽減につながったものと評価している。時間外勤務は、早めの退勤者は増えたと感じるが、職員が固定化されつつあり、個別に意識変容につながる取組を進める必要がある。

目標設定区分４『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
小中連携・一貫教育を基軸とし、地域コミュニティづくりの推進を図る。 ①　「家庭・地域・学校の連携、協働の推進」 四條畷中学校区学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の深化と充実を図り、本会が主体となった取組みを展開 ＰＴＡ活動や地域諸団体と連携した取組みを通して、家庭教育支援の充実に努める。	①　四條畷中学校及び四條畷小学校と連携し、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）について、学校だよりや各会議において、保護者や地域への発信を行い、学校運営協議会の円滑な運営を図る。 ②　学校自己診断等　児童保護者教職員アンケート（３学期分） Ａ（保）（児）（教）「中学校区の取組みやＰＴＡ行事、地域行事への参画」に関する質問（R6/児 74%、保 88%、教 91%）

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	結果	評価
「家庭・地域・学校の連携、協働の推進」	①　学校だよりやＨＰでの紹介３回以上 ②Ａ児 80%以上 保 80%以上 教 90%以上 ※肯定回答	①　3回以上発行（学校だより等） ②A 児76%　△ 保82%　〇 教97%　〇	概ね達成に至った。 学校だよりや連絡アプリケーションを活用して、子どもたちの学校での様子やPTA等の取組など発信してきた。学校運営協議会に関連しては、その仕組みの解説などを行いつつ、大そうじや PTA 行事への参画等について、保護者等へ発信した。 教員も保護者も中学校区の取組や PTA、育成会や自治会等地域行事にはその有効性を認識している。その一方で、児童の認識が達成していない点は気になるところ。そのなか、CS の取組で地域の方々と大そうじを実施したり、大そうじをきっかけに１年生と地域方々との交流会も実施した。 子ども中心に据えて、学校、家庭、地域のつながりを理想とするが、学校の働き方改革だけでなく、保護者の負担感をも視野に入れながら、今後も子どもが真に楽しめる取組や行事の展開をめざしたい。

（様式２）

5 学校関係者による評価（学校運営協議会等）

令和8年3月6日（金）開催の会議において、四條畷中学校区学校運営協議会委員の皆さんより、いただいたご意見を以下に記載する。

・子どもたちの「あいさつの向上」はこの間の学校の取組や啓発で向上している実感がある。児童のあいさつと併せて教職員からのあいさつももっとあるとよいなと感じた。教職員や PTA、保護者とつなぐためにも、ふれあいフェスタなどの行事に、可能な範囲で一緒に参画していただき、顔見知りの関係性を築きたいと思う。

・組織的な動きの結果が低いとされていたが、同僚性が高いことは素晴らしいことだと感じた。

・PTA 行事ふれあいフェスタでの大阪電気通信大学からのブースは子どもたちに大変好評で、出展した学生も喜んでおり、お互いがよい関係構築が図られたと思う。今後も貢献したい。

・大そうじをはじめとする地域の方々との取組は大変良かった。忍小は民生委員等の参加も多く毎年たくさんの参加者がある。

・1年生と地域の皆さんとの交流行事に図書ボランティアとして参加したメンバーから「たいへん楽しい時間だった」と好評だった。行事後は大勢の子どもたちが図書室に来室していた。

・図書に関するイベントがたくさんなされていて、図書ボランティアとしても景品作りの手伝いをしたりして、一緒に楽しむことができた。

・今後も PTA が学校や CS の活動の架け橋になればよいなと思った。

・教職員の働き方に関して AI の利用はもっと推進してよいと思う。ただ、子どもたちには AI や SNS に触れる場面もあるかもしれないが、「その内容を鵜呑みにせずに、批判的に見て判断する」ことを意識してほしいと願う。

6 総合評価と次年度に向けて

令和7年度の学校経営において、本校は「みんなでつくる楽しい忍小」を教育目標に掲げ、児童の自己肯定感の醸成と「生きる力」の育成に注力した。学習面では、国語科を軸とした言語能力の育成や ICT 活用を推進し、大阪府教育庁から「優秀教職員等表彰（団体の部）」を受賞するなど、授業改善の取組が一定の評価を得た。児童の意識調査でも「授業がわかりやすく楽しい」との回答が目標を達成し、特に「すくすくウォッチ」の教科横断型調査では府平均を大きく上回る成果を上げることができた。生活面では「あいさつ」の習慣化が定着し、地域からも高く評価されている。また、児童・保護者・教職員の多くが「学校は楽しく安心できる場所である」と回答しており、教職員の寄り添った指導による「心理的安全性」の確保が、児童の挑戦意欲や満足度につながったと総括できる。

一方で、教職員のなかでは組織運営と体力向上において課題が残った。異動により構成が大きく変わった影響もあり、「組織的な対応」は目標値に届かなかった。働き方改革の面でも、欠員の発生などによる負担増から、授業準備時間の確保に関する肯定率が大幅に低下しており、特定の教職員への業務固定化も課題と感じている。

また、児童の体力面では、運動への関心は高いものの、全国平均との比較では依然として差があり、特に男子の数値に課題が見られる。

次年度は、「安心感」「心理的安全性」という学校の安心安全につながる土台をより一層強固なものとしながら、さらなる組織力の強化と学力、体力の向上を図りたい。とりわけ「組織体制の再構築」、「確かな学力の定着」、「体力向上の推進」、「地域連携の深化」等取組を通じて、子どもも大人も共に成長し、よりよい「つながり」を育む学校づくりを継続してまいりたい。